

敗戦直後の釜ヶ崎の生活

戦犯をまぬがれた元少将の話

八月二十四日、天王寺公園に編集委員が
出かけて、とても興味ふかい話をきいた。

話をしてくれた人は七十二歳。戦後すぐの
釜ヶ崎生活を体験した元海軍少将（自称）で
ある。釜を脱け出したのはめぐり会った旧部
下の世話だったと云うで、それ以後は普通のつ
とめ人としては高級な方の仕事について、現
在は軍人恩給をもらっている。

その話を、ちよつと持ち合せていたテープ
レコーダーに収めたのを文章にしてみた。ほ
とんどその人の話しぶりのままだ。

したりとか、商売に失敗したとか、バクチや
女に手を出したとか、家に帰られへん、ある
いは農場の金つかいこんだとかが二人程や。
あとの八人は監獄出や。そういう人間はな、
もう悪というものに徹してというたらおかし
いけどな、もう、なんでもないんやな、もう
ピアツカマシイばかりなんやウン、もうコ
ウセイ、つまり今でいう更生やな、マシメに
帰ってこれよう、普通の一家の父であり、夫で
あり、主人になってこれようという気がありや
せんものや、もうその日々の目ぐらしで世捨て
人升たいになつてしまふんや、また、世間も
やな、ほなお前も耳が耳やから、監獄でマ
人前自分の勤めを果してきたんやから、ツゲ
ナイすましたんやからここらへんで家に帰っ
て何せい、ど世間もいりてくれん。

自分でマジメに稼ごうとせんから、そりや
そうや飯に五百円もうけて当時へ昭和二十五
年頃？その当時な、その当時わしら二百八
十円、日当、その当時一番元氣な人間で二百

わしもな終戦後やな、終戦後木澤いってそ
れから、実際の話しわれんのやけどな、今や
から言うけど、わしは、アノ、軍事裁判やな、
軍事裁判になるやつや、身隠したんや私は、
ナ、雙鴨に入つてこれかなあかんかったんや、
雙鴨に入つたらわしの立場として……わしは
捕虜を虐待したことはなかつたんや、なかつ
たけど捕虜収容所の所長をしようとったからナ、
南方のパラオで、そやからわしを探しまわり
よつたんや。

身隠したんが昭和二十年——昭和二
十年からやな昭和三十年まで釜ヶ崎におつた
んやわし、ナ、今はあれから大分時代が變つ
てきたけどな、あの当時いうたら十人おつた
ら八人まで監獄出や、あとの二人はパチンコ
八十円や、わしら軍人で、私は出るときは海
軍の少将ででてるんや、ナ、少将の職権はと
つたことはない、大佐でやめたんやけども、
マ、恩給は現在少将の恩給でもろうとるんや
けどな、マ、海軍大佐でよろしいがな、そう
いう人間が、天秤棒ひとつかついだことがな
けりやスコップ一つ使つたことがない、ない
けどもやな、身を隠すところたらあすこん
……マ、今はもう警察なんかでもなかなか登
ヶ崎ようけ刑事なんか入つていてなかなか乱
れとらんけどね、終戦当時のないうたら間
市なんかあるしな、この辺無警察、無警察状
態やった、あすこに入つたらね、みすみすわ
しが犯人やと思つておつてもやねどうするこ
とも出来ん、入つたら親分みたいなのおつて
やな警察も手だせん程やった。

あすこに十年おつた、そやからな甘いもス
イイも……わしはなもう十年か十一、二年ぐ
らいおつたんじや、その間な、もうようよ仕
事がない時にはやな、動物園の所に中古品が

あつてやな、美術館じゃなしに、今大きなキリン、キリンじゃなし加工した何があつた。でしよう、昔の野球場あるでしよう、あのむこうかわ、むこうのところに大きな中古品があつたんや、今でもある。あれはずーっと野球場があつてな、一般開放してあつて、つい最近(数年前)動物園がカキへ壊したな。その時分には、その中古品の所に木、もうあの、石炭箱を二つおいて、それで、上に持おいて、それで炭俵の空袋を二枚も三枚もひろげて屋根にして、それで寝てたんや。金もうけにならんでしょ、スミ候一パイに入れて八十円ぐらいにしかならん、こな、マアカとか鉄とかあればどうかしらんけど、そういうものはのつたにありやせんで、だから日に二回か三回ぐらいまわるんやな。タンポールもなかなか手に入らん、そういうところはバタ屋の、顔のところはバタ屋や、松屋町筋あたりとか、南海駅とかな、なわばりがある人や、バタ屋の古いのがな、大きな車もつて、リヤカーとかな。



でも

我々は炭俵しかもつてへん、自分の糊口をしのぐだけや。

ほいでフ口も何ヶ月も入れやせん、身体中真黒にして、フ口屋は真黒にしとるのキラウからは、わしは一ヶ月ぐらひ風呂に入りやせんやつた。

で、寝る時はそこにおつたんやけど、雨の降るときは困るじやろ、そうすると南海電車のガード下に行つて、それも遠じんや、マアあつたう時はああなるんじや、今いうところのお米屋へ行つて米俵をむんや、あつたうのはなかなかくりやせんからな、温むんや、その中にコソコソと入つて寝たからな、そりやもう掛簿二枚、三枚着て寝るよりぬくい。ワラが三重になつとるんやあれな、それで俵にあてる丸いもんあるでしよう、あれをよするに紐にしてやな、口のところを中から、コウ、細いヒモでかがつてあるのやからな、中からシボルんや、汗ビショビショや寒中

それでもう宿賃はいらんやろ、ただその日食べるだけ、その食べるのはやな、今の今池の安定所、安定所の前に行つたら、こんな大きなドンブリ鉢の中にドンダリの実と普通のメリケン粉を半々にしたような圓い圓いダンゴや、それがこれぐらひの奴が三つ入つとるんや、葉っぱいうたらキャベツの葉が一枚ぐらひやな、一枚いうても一切れぐらひ入つてただで何も入つてへんのや、それで三十円や、それ一杯くうたらいかにその、太っ腹な人間いうても腹いっぱいになる、それからパンへ喰ははやな、パンは五十円出したら三つ五ウドンがありよつたんや、それでもう胃の中はホコホコふくれるで、それで寝よつたんや、それでやな三十円と五十円で食べ代八十円や、一ペン俵かついで午前中いったらな、それで一日食料あるわけや。

酒は焼酒、之を酒飲まれんやつたからな焼酒、それでもわしは焼酒を五勺のんだらよか

ったからな、あまり好きやなかつた。今ほも
う全然認めへんけどね、その時介そうやった。
それでな、それで午前中それするでしょう、
それで昼から働く、なんでいうたらいつなん
どき雨降るかわからんでしょ、雨降ると廻る
のに廻りにくいからな、寄せ屋買ってくれん
、紙が又レルからこうてくれん、ハカリが重
うなるから、そやから天気のエエ時にやな、
食べものをくいと送そうと思つて、今度はパン
一囀、行くでしよ、パン、ヨセ屋がしまらん
内に行こう思つてパン行く、それからな、夜
は、八時、九時、十時頃になつて一過まわる
。ほしたら今度は捨うんじやなくなつて盗みに
行くんじや、バケツとかオナベとか、こう
。今はたいてい家の中においとる、その当時
はまだ焼跡でな、バラックみたいなところや
、家がな、外にかけたある。それをやな、生
のままでもつていつたら窃盗になるわけや、
こう、盗んで来ても影の方へ行つて足でカシ
ヤカシヤ踏むんや、形がこわれてれば警察も

見たつてやかましこといわん、ほやから、
アカのバケツがあればなおさら之之し、アル
ミのバケツがあればなおさら之之、なければ
普通のバケツでも之之ともかく、こう四軒五
軒ぐらい荒すわけや、そいつを夜の間みろ
うて朝ヨセ屋があけるとすぐ売るわけや、又
、そういふようなことをな、マア半介盗人の
ようなことをした。それは盗人することは悪
いこととはしつておる、けどもくわんが倫に
、くうためにもう、自介があけの日にたべる
パン買う金もなくなつて窮したとしたら人間
そういふことをするんや。
今のなんやな、共産党に入る人間もやな、
不平不満ある人間がやな付和雷同して行くん
や。

